

(公表資料)

## 新たなオーケストラ支援事業 助成対象団体の決定について

令和5年12月27日

独立行政法人 日本芸術文化振興会

独立行政法人日本芸術文化振興会では、新たなオーケストラ支援事業の助成対象団体を決定しました。

本事業は、民間団体から寄せられたご寄附を原資として、我が国のオーケストラ界を活性化させることを目的に、オーケストラ活動の底上げ及びオーケストラの将来の財産となる取組への支援を原則として3年間にわたって行うものです。

先の審査において採択団体が選出されなかった助成対象企画「地域の活性につながる活気のある団体を目指す。」において再募集を実施し、申請のあった10件の取組について、助成金交付の適否を芸術文化振興基金運営委員会特定寄付金助成金交付に係る専門委員会において審査いたしました。

審査の結果、採択数は1団体、令和5年度における本助成金交付予定額は1億1,000万円となり、その結果について同委員会舞台芸術・美術等部会及び運営委員会での了承を受け、別添のとおり決定しました。

新たなオーケストラ支援事業 助成対象団体審査結果

助成対象企画	応募団体数	採択団体数	採択団体名	団体所在地	助成期間における事業概要	交付予定額 (単位:千円,1/3年目)
②地域の活性につながる活気のある団体を目指す。	15 ※	1	公益社団法人大阪フィルハーモニー協会	大阪府	地元大阪市西成区の老朽化した練習場(築32年)を補修し、地域住民を対象とした練習見学会やコンサートを開催。また市内の中学校吹奏楽部の生徒を集めて指導を行い楽団員と共演するコンサートを実施する。一方鑑賞機会の少ない諸地域で定期演奏会に匹敵する一流の指揮者との本格的なコンサートを開催し、そうした企画・運営を担う人材を大学と連携して育成する機会にする。更には2025年万博に伴うインバウンド消費を睨み、ワールドクラスの指揮者で注目を集める公演を実施し、関西に文化的活気を取り戻す。また2025年は阪神淡路大震災30周年に当たり、神戸市と震災の経緯と教訓を次世代に伝えるイベントを共催する。	110,000

※助成対象企画②の応募団体数は初回募集時(5件)と再募集時(10件)を足し合わせた件数。

(参考) 前回審査時の採択団体

助成対象企画	応募団体数	採択団体数	採択団体名	団体所在地	助成期間における事業概要	交付予定額 (単位:千円,1/3年目)
①国際交流を通しての質的向上を図る。	7	1	公益財団法人東京交響楽団	東京都	アジアを拠点としたグローバルで多角的な活動を展開する。国際的なブランディングの確立を目指し、楽員の視野を広げ、人的交流を行なうことで、日本の音楽大学や楽団オーディションの多国籍化、アジア全体を対象とした芸術文化圏を構築し、クラシック音楽の普及に貢献する。 【1年目】 多言語ホームページを整備し情報発信。/タイ国立シラパコーン大学とパートナーシップを結び、実践的な教育活動も行なうほか、ロイヤルバンコク交響楽団(RBSO)アカデミーでのマスタークラス開催。/3月にバンコクで東京交響楽団演奏会を開催。 【2,3年目】RBSOとの合同演奏会、アジアでの教育プログラムの実施。継続的な支援者の確保。	100,000
③団体の個性を生かし、ユニークな活動を展開していく。	21	1	公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団	東京都	日本フィルハーモニー交響楽団では本事業を契機として、芸術性と並ぶ楽団の大きな特色である「社会性活動」をさらに充実・拡大させ、社会と強いつながりを持つ芸術団体として発展させる。具体的には「東北地方の復興を後押しする様々な活動」、「ワークショップを含む独自の教育プログラム」、「九州公演等、地域に根ざした活動」、これらに重点を置き、活動実施基盤の整備、活動内容の充実、活動内容の発信強化の3つの項目に取り組む。これにより、高い専門性を持った人材との連携、基礎調査や拠点の整備、事業の記録と外部発信、ネットワーク構築、海外発信等を積極的に実施し、社会性活動を力強く推進する。	66,500

## 新たなオーケストラ支援事業の審査方法等について

特定寄付金助成金交付に係る専門委員会（以下「専門委員会」という。）は、募集案内で定める趣旨・要件等を踏まえ、審査を付託された助成金の交付対象となる活動について、専門的立場から、以下のとおり調査審議を行った。

### ○ 審査方法等

1. 各専門委員は、助成金交付申請書について、以下の「審査基準」ごとに、「評価の区分」により書面審査を行う。
2. 専門委員会における審査は、書面審査を通過した申請団体を対象に面接審査を行い、申請内容の詳細についてヒアリングを行う。
3. 書面審査及び面接審査の結果を踏まえ、審査基準に沿って総合的に検討し、専門委員の合議によって「採択」又は「不採択」のいずれかの評定を行う。

#### ● 審査基準

- ア. 助成期間中（3年間）の取り組みの到達点の高さ
- イ. 助成期間後（3年後）の取り組みの到達点の高さ
- ウ. 実現性

（注）アについては10点満点での評価、イ、ウについては5点満点での評価とする。

#### ● 評価の区分

- ア. 助成期間中（3年間）の取り組みの到達点の高さ（10点満点）

評価区分	内 容
10点	非常に優れている
8点	優れている
6点	標準的である
4点	見劣りする
2点	とても見劣りする

（注）アについての評価区分はあくまで審査の目安であり、9点や7点などの評点も認められる。

イ. 助成期間後（3年後）の取り組みの到達点の高さ

評価区分	内 容
5点	非常に優れている
4点	優れている
3点	標準的である
2点	見劣りする
1点	とても見劣りする

ウ. 実現性

評価区分	内 容
5点	事後評価可能な具体的な計画があり実現が大いに期待できる
4点	計画が具体的であり実現が期待できる
3点	計画の具体性に改善余地はあるが実現は概ね期待できる
2点	計画の実現性に乏しい
1点	計画の実現性が全く期待できない

## 芸術文化振興基金運営委員会委員名簿

### ○運営委員会

委員長	中	村	孝	義
委員長代理	衛		紀	生
委員長代理	三	好	勝	則
	猪	崎	弥	生
	柏	原	寛	司
	児	玉	竜	一
	後	藤		治
	小	松	弥	生
	齊	藤	孝	正
	新	藤	次	郎
	西	川	信	廣
	野	平	一	郎
	福	島	明	夫
	森	西	真	弓
	山	脇	晴	子

### ○部 会

#### 舞台芸術・美術等部会

部会長	西	川	信	廣
部会長代理	猪	崎	弥	生
	小	松	弥	生
	野	平	一	郎

### ○専門委員会

#### 特定寄付金助成金交付に係る専門委員会

主査	澤		和	樹
主査代理	加	納	民	夫
	岡	部	比呂男	
	小	山	実稚恵	
	鈴	木	幸	一